



中村俊定文庫
文庫 18
59



哥林塔眉集目錄

秋

立秋

玉象

扣撲

朝良

桔梗

虫

霧

一葉

醒

秋收

秋柳

芭蕉

木槿

荻

七夕

文月

秋扇

秋蟬

稻妻

鳩吹

女郎花

秋言
葛 麻

雜秋
葦 礎

木末
菊

紅葉
楓 芋 月 鴈 律 秋 蒨
韻 草 蒨

崩築
色 初 約 鴨 芦 病 花 萩
葉 垣 速 蘆 蘗 燈 蒨

什
秋 司 蘭
風 馬 秋 司 蘭
風 馬 秋 司 蘭
風 馬 秋 司 蘭



平林齋集卷之三

秋

立秋

風乃子も今朝もやうきの夕月
好きぬとつふへうさ部の暮り
風のそよぶと文月はるく
風は声もそよひさきり今朝秋
秋ハけささるるもそよひさきの
夕月や一書破る川けさる秋



獨吟

五言

日曜

夕陽

夕月

法定

五言

一系

一葉つらちるやいろはのそふり
一系ハ猶きん紅かんウ引ひくも乃あこ
先一系ちるをハ風のそふり
あよ落おふ一系ハ柳やなぎ 籠かごりふ
落おし解とく一系つちふたふ
そまきよむ庭にわ一系ちり柳
一系乃ふ庭にわあしけの水
宮みや疾はや飛とり一系み月つき林はやしの色

追善

日野住持

正志

因良

惟安

玄聖

閑亭

帝

及之

石

好現

阿良

東宣

藤

政全

石

吉氏

風小ものつらちるのうき世乃一系

江守 徳元

七夕

糸いとけくまくまつるや網あみ乃のめめたたなり
星ほしままるる香かう乃のちちりやや世よののいいき
幸さい牛うののひひすすきき星ほしとと天あまのの原はら
むむひひ乃のちちりり薫かゆゆ物もの姫ひめややああひひのの火ひ
ととああてて見みるる幸さい牛う織おり女むすめふ
七夕せつたふふりりめめるるかかもも七しち書しょりり那な
りり水みづよよううををりり記しふふをを枕まくら乃の寺てら

信述

季吟

貞辰

日

政中

知仁

一之

天の河やいも二星乃意の劇

まさ 泰補

さあきの人おやう

あつ川や美女を祿ふひの糸合

河花 一千

織女のちきりい核乃つまきり糸

小村 春凡

七夕れ意乃ふもこつわりのほつ

音 泰舟

もんよわふ七夕つあやや少将泰

音 政共

ゆひ切や七夕つあのおけいやく

日

はれ一ねらきらや志のめ七夕

世村 正久

あま乃川のせまくくまらや二星

河村 季有

七夕にあいもあまぬ七日り那

河浦 知

銀河を妹背れ中の一し燈川 可

星とりちぎれや夜もまらきれ

日

手向の風さぬうりやめたふり

村後

りし星あふまきりあふね水

日 清記

能あつて七夕乃星やあひ乃物

政由

玉久お 付持信并道飯同蛇翁

父よせつら志のま向はくつうまら

可也あ

親と志くふ卒劫時流く水絶織花

あひん 一雪

とふらぬやたしぬあひ乃たまきり

あひん 定勝

水のありときししとよや川せり
 聖具乃棚まつりやまをまま記に
 けり火の出離あき聖具のまうり
 あふりつるえん聖やほよおくり
 拵乃茶ハ極糸乃ひきより
 めくたきと人やいそめ甚の合
 先いまこにわひは志むや道乃飯
 是ハ夜中をほとりまやむ灯籠
 ころことや上子のよらもをもち
 蠟燭も立法乃をふりころち
 萩原 春浦
 松平 道政
 一村 長三
 吉原 正吉
 徳川 知仁
 長好
 正成
 吉勝
 正辰

鐵心てつしんの目ふまより、灯籠や火の車
 貞辰

踊おどり 踊子おどりこも係成て他き本ほん宿しゆく
 茶うちやうをりたまつるをちやせんがら
 新拍子にいひやしいたらんよりもとを
 ぬ乃法ぬのほふも志むやぢりくたをりの切
 肥前 貞辰
 如才 三喜

文月 文月乃うら男や流るる昔
 つふ星のありよつけてや文月夜
 文月やよむよま鏡かがみまぬりの数
 大塚 三喜
 三喜

昼のつらにね通し一月月よ
山筆下海いすく月りわき月よ
文月の海乃木さあやらり物
おすきの新や白紙乃文月紙
山出てん家いせと文りあき月よ

相撲

上もろりけつるあつのをまひに
引くしてあくるまよやあけをま
拾ひちげいそひとりりちのお撲か
こそまよよろやあつるに人もまき

小世一之
純備一

留田 西之
宮前 重友
幸利 正喜

あけ 定勝
松平 老中
独り物 新
吉坊
辰造 西久

水車れ小ままよやそんく
殺りもよとれありのね撲り
能くとれ是は人目の笑お撲
下紐乃むをいととれお撲
若知るま砂地このむをまひ
そをしてみもむい志あり負お撲
わきありやつあきふり人勝お撲
こはゆきしてまよとれやまけお撲
月記はゆきせあけもまけや勝お撲
まけ版とまきつらうやせまきまよ

廣一
名を征
正喜
家治
貞景
貞景
宗勝
光の
正喜
正喜

秋風ハ釣子もつぬ蚊怯ク那
蚊も秋乃風は志ちやうの別建ハ
蚊もや灯籠本乃やうふ益ハ
秋風ハ釣子もつぬ蚊怯ク那
蚊も秋乃風は志ちやうの別建ハ
蚊もや灯籠本乃やうふ益ハ

秋蚊

秋扇

扇並しも暑させん〜とあり多
扇並ハ暑乃く人のきく〜と那
扇すまひ柄や誰も斤年あげ
老乃秋子あきことまふやれおき
並よりふあふを親女々あきさハ

朝歌

あさり海乃露のわひのふ〜と
あさ戸初〜と朝鳥もひり存介
あさうが乃未初のみ〜と親あ

秋柳

加良 正辰

位 政全

之 改

正吉

平吉

日登 度入

尾 卜心

三川 正吉

平吉

自泉

光永

西直

梅原

梅井 法之

政全

平吉

風やうらそ柳の系切^{せき}定^{ぢやう}
らぬ美ふいつあひらぬ川柳
大和^{おほ}保^ほ 去定^{きぢやう}

あつこのうらわれけりまななり歌
ほ師^しあをれとまをむひりせとこ
かまへてしわれぬのみれとらとてひ
そくにりくひはうら^{うら}

恋風ぬ^{こひかぜ}落^{おち}髪^{かみ}おの柳^{やなぎ}れ^れ
せ 政全^{せいぜん}

秋^{あき}蝉^{せみ}一^{いっ}付^{つけ}朔^{しやく}

秋乃^{あきの}きこや^{きこや}舟^{ふね}物^{もの}くこつとわまれ
あき鳴^なハ^は枝^え樸^{はく}の^の子^こく^くせいの^の戸^と
系^{けい}に^に好^{こう}現^{げん}

昔^{むかし}の^のあひく^{あひく}きん^{きん}く^くとあ^とく^くき^き
目^めく^くし^しも^もと^とま^まう^う桑^{こう}楡^{じゆ}の^の楮^{ぢゆ}ハ^ハ
う^うき^きや^やさ^さめ^めひ^ひて^て垂^た苦^くむ^むり^り
せ 政全^{せいぜん}

楮^{ぢゆ}板^{ばん}

は^はく^くあ^あや^や今^{いま}も^もう^うき^きね^ねて^ても^もひ^ひと^と茶^{ちや}
色^{いろ}小^こ津^つ糸^{いと}あ^あゆ^ゆハ^ハ茶^{ちや}う^う楮^{ぢゆ}板^{ばん}ら^らく^く
いろの^{いろの}う^うき^きむ^むの^の衣^いや^やな^なに^に楮^{ぢゆ}板^{ばん}
貞^{せい}辰^{ぢん}

芭蕉^{ばしやう}

今^{いま}を^をば^ば茶^{ちや}よ^よつ^つむ^む人^{ひと}の^の卵^{たまご}
あ^あは^は月^{つき}日^ひを^をく^くん^んを^をと^とら^らぶ^ぶ家^か
貞^{せい}辰^{ぢん}

もろりや萩乃^{にき}勢^せを^らり^ところ 貞辰

本様

と京(ま)うりく

う^らし^あ花^やひ^くげ^の地^勢息^一 河原

鳩^あ吹

秋^あむつ^つより^ぬ家^鳩を^吹き^か 自承

勢^せ力

と^はく^やも^むき^をた^の勢^乃海 信託

勢^乃海^の海^や里^あき^やを^ちき 政中

風^乃も^ふの^こち^りせ^るや^四方^もも 独歩 若者

萩

物^との^ぬ夜^をふ^れぎ^やひ^り云 和れ 正辰

浦^風は^萩乃^声り^やあ^うう^りを 物略 自承

声^の不^まの^こち^りせ^るや^萩乃^声 高川 正基

女郎^{むすめ}花

花^飛も^はる^りね^やあ^まん^なむ 高川 正基

か^まみ^の花^飛も^あう^んあ^う 高川 正基

ち^るよ^んも^むと^さら^りや^女郎^花 田中 正基

胸^のさ^らり^あん^たれ^そ女^郎花 田中 正基

立^姿よ^りや^花飛^乃を^さら^り 田中 正基

栗飯の塚乃を向くをこまへ
色好の権とやいふんをこまへ
一かたはあともまふをこまへ
衣えよや東侍人待をんまへ
海子野の露垂さぬをんまへ

為

秋きた種ハ吹ちりてこまへ
系すく交結乃いともやけひま

むらやま南よあひて

武苑野やひふのむひて社為

可智
長
大坂
初平
政重

貞辰

日

徳元

玲ひのほくの鷹のね為ふ
破乃工よもむ為の女流之
こまへわら少燈乃為の小町
おの教もこまへりらすは之
條乃系よこまへぬをわの志の為

萩

みまこぎよ一文字まはむお
彦彦よなつてまひとれあきらさ
まぬまきのまゆらふ乃すを燈か

追善

末川 西久
和良 貞辰
池田 一目
尾花 一和
高川 西美
西久
貞辰
西辰

ちり果不^大信を念佛小^十こま^大小
味^奥曾^田たき^奥小^田ぬ乃志つ^奥いな^田なり^奥成
あちこち
蘭

らふらんの名^奥角^田一^奥穴^田の^奥狐^田丸^奥
跡^奥と^田ふ^奥よ^田に^奥印^田か^奥う^田らん^奥れ^田登^奥り^田小^奥
名^奥香^田や^奥入^田ふ^奥と^田う^奥らん^奥の^奥花^田登^奥り^田
秋草

花^奥は^田風^奥や^奥う^田の^奥ら^田う^奥せ^田に^奥約^田つ^奥あ^田き^奥
床^奥の^奥花^田を^奥
舟^奥う^奥入^奥い^奥是^奥湯^奥あ^奥く^奥ひ^奥う^奥約^奥つ^奥あ^奥き^奥
尾花
正辰

滑^奥ぬ^奥よ^奥ら^奥く^奥も^奥や^奥新^奥乃^奥約^奥つ^奥あ^奥き^奥
小^奥車^奥れ^奥と^奥新^奥ふ^奥花^奥を^奥つ^奥らん^奥も^奥り^奥ふ^奥
と^奥ら^奥海^奥乃^奥花^奥よ^奥並^奥あ^奥や^奥玉^奥の^奥こ^奥
れ^奥の^奥つ^奥う^奥あ^奥や^奥並^奥あ^奥け^奥海^奥風^奥車^奥
父^奥病^奥と^奥あ^奥け^奥て^奥お^奥と^奥ま^奥や^奥お^奥持^奥草^奥
犬^奥は^奥で^奥の^奥存^奥ん^奥ト^奥て^奥ち^奥ら^奥う^奥仙^奥翁^奥む^奥
鬼^奥妻^奥乃^奥は^奥家^奥い^奥と^奥毒^奥れ^奥ま^奥り^奥ふ^奥け^奥
く^奥ひ^奥玉^奥り^奥病^奥も^奥む^奥ま^奥へ^奥ふ^奥え^奥の^奥子^奥草^奥
風^奥よ^奥秋^奥乃^奥登^奥り^奥と^奥ち^奥ら^奥う^奥や^奥花^奥軍^奥
白^奥あ^奥や^奥け^奥ふ^奥い^奥え^奥ふ^奥ん^奥鶴^奥尾^奥乃^奥
尾花
正辰

花野

少雨なまきけ涼草のこふむら 貞辰

花をおもてぬく物見の芝枯子 平吉

風やけ登るひく内登れ志軍 深見 友政

司古

みりきもりま米生い火をたけ目夜 忠田 貞辰

を織乃人やいこふ目免 忠田 古根

律調

松山の律乃志くく人のくや水 阿良 中法

露

とこくさにとくもつるおきやけさ家 三司 正善

相の葉乃あやさふう壺乃玉 阿村 同

吹すうやまの葉よのる露の玉 深見 助友

坪の内乃八子れあや蜻乃い不 深見 正徳

葉まこれ葉とさるやほめのは 阿良 信実

風乃只の吹むおまやな乃露 三司 泰舟

木骨ありある葉律の葉れあ 阿良 同

とまの葉れ露も碑や色のは 阿良 同

茂花野の露よいあつまうけ水 阿良 一十

他の追善

霧の牙秋やけさるをふ南を阿孫十三松

秋田

秋乃田やわらふりつら子の夜や可後色冬

よこねと云腫物よこめはな人
のまきき一侍り

秋風うらむむをよ乃よこね二後

縮造無厚信よあつぬあつやあをたて見

不さあ縮いこも乃地孫日自安

海田のやうり目やけよあひていこ

他物よこめとて

突もあつて種い信カのやき廿未宣

僧形落を山田の流道のとんぶ何良東宣

山田寺僧形もさうや水ころも日一十

いりあさる僧形乃まもり甲平業

女座ともよせぬ死乃僧形否吉氏

おのなれ信のまの梅田平平吉

秋風よき後ぶ内田やまひ貞恒

かんれやまひ胡國乃平藤吉一

旅旅月十三らん一八百や一はく一ひ一せん

阿良吉谷川流

芦花 ^{かっく}
芦乃植わさうつゝいあまのからけ
るゆき

鶴

高野のうつくしきとていかにあては
日

橋筋乃人下あま

あき尾とて声も引毛乃うつくし
日

つけとみよあま乃あまうつくし
地浦 知貞

鶴

ぬりきこらめをいまとのを同
自晨

くはあまの志あまてつゝあまの鳥
日

鴨

山里りのいぢひ鴨乃あま居る
吉田 政共

かま細をぬけとてあまのあま
西友

父とてゆるるあまのあま
原田 政明

鴨あてかんきんすあまの
原田 政明

あま

八尋乃うらそく入あまあま
自晨

まめなるやあまをいぢひ鴨乃
原田 政明

あまのあまいぢひなるいぢひ
原田 政明

あまのあまいぢひなるいぢひ

釜乃ほお住りるるハ火たき
やこおとらふうや新のうら
谷あひへふるもるもまはる
水あふるころハ田而もわあり
あうらうふるあいらうあ
橋さつ切つてまつたえけは火燧
るの名れむといわ戸のきけ

月

三ヶ月や春ふまといひのあ
その是とち力とあま三ヶ月の月

野上 三辰
長 行廣
堀 太徳
因 備矣
江列 山宿
肥前 氏氏
正行
平去

貞農

同

三ヶ月ハ白木のころそらうの末
かきえとれらふる川の三ヶ月
三ヶ月のうら男やねん師
いりやや海山のとて丸ん月
水まよふおら三ヶ月ハ古新う
新なりしとやゆりも坊と今月
三ヶ月継るあまやわいふと
大江山よおあ三ヶ月やお母乃角
つあといんま山乃三ヶ月
松をりてさげけりや月のら

三川 日
西
右一
中一和
徳 貞航
深見 一重
徳政
徳政
を

月の輪乃入み挿や二重をこ日理位可久
 月乃嵐出あふんは秋かのだま新卒恭輔
 月丸嵐むつくいふあり船目け山貞辰
 雲志ん足んえさ体月の移をこ長存位重徳
 あらやよこやまむ月乃白嵐長存位之政
 水は物いほくさよ紀を挿の月長存位定勝
 月の月丸ふん乃屋もあ山重命
 又連いさもしやしくさるや月の羽新川正氏
 を君ともゆけ丸あまこや月丸毎政由
 のありさあやのままりう皓の月 月

洗濯うたつる月もまきす挿 月
 やとあまはち方と月丸まきうりて
 つく乃上整さうあやま海の月長存位之政
 乃あ月のめもりや人の目せ屋母田重友
 後よらんもうさ挿指かろ月丸か伴西成
 月の丸やうさうさけくわくま長存位西辰
 入月乃氣は神もや山こもりま貞辰貞辰
 まゆねや毎天とれる乃月乃ま 月
 弦神と月見まきうりて
 筆を捨て詠むる月やをこ川 村井 一光

月乃痛も水々ふるふる立田川
 ちやうとまけずふころ星月夜
 待月もいそやせの祓うひまの
 天の戸を月ごとて見せよ東宮
 せいそてぬ月よいそてぬ山居家
 物る月のちりもたふ麻世果くれ
 うけは心月の都や熱くふ己
 戸のすじ居のそき思ふや月の鳥
 十七夜を先宵待居候るに西降るれい
 卯とひ乃やうたなる月のうりも家
 定後

鼻うけもまくりのよころや月の独
 抱月を會つていふやいぬ戸か
 星めらさく月乃けやふどり酒
 西山走のそくまふて
 清山やま如乃月志光明寺
 十方も晴あや月乃光明寺
 源氏やさく白旗の岩乃月
 下目よいそられぬものや元村
 あらやらとあはれそ星の月の友
 丸くいそ男こけおよ秋中の月

決

編幅子
 平吉
 純吉
 中法
 一貫
 信法
 光平

阿良
 心盛
 佐志
 正忠

安戸
 家治
 伊
 正成
 西久
 徳政
 政全

月はらちと移るる家や児玉堂
 月乃らち此極男やひとりす
 急あつたたまよらうきあき月
 けりもや山乃陽よあはれや此月
 うさくは福むらうお津の月れお
 あさら秋乃月をこくくも水系
 奇人やあんしや川らふ月忠徳
 をまぬおと人よいつらあ月乃雲
 舟のあよむとむもやのきか
 月乃けれらりのよはあやありれ

大後念六氏
乙流
日
近
文川
西久
負
甲
西久
一十
日

各の月乃らうのや河内瑞のあ
 極ゆる奇しふもきぬや月乃雲
 短尺や志き鶴めらあ月乃奇
 月乃てあをんく吹すやあつら奇
 月と日れあまうや秋乃おる登
 志ん氣やこらん乃月のらるる
 戸を志めくあうぬこれな宿の月
 うき雲よ月を初川こもあ葉
 浪は月をほおもいふ源氏ゆ
 たと見え月入乃字々西志ん

長唐
之政
政全
日
山科
負
尾
法親
法親
負
江
古吟
如極

蘇我も人もぞ見えり月乃友 留政

友をむまくと他なる者うて

文字よ似い少人も宵明け家の月 阿良中村 重友

粟刈とも是りし一箇月乃のけ 梅成

月乃惹定きあいのれりし狸節 野家 阿成丸

くも見えんよにすむらゐのお月式 野家 經知

月の傳り

白くろとおくもあ月の暮あふ 吉田 政共

世界といおこまや月志を殊 大塚信 佐原

清めふもいけきこや月乃也 原口 好現

西暦てまゝ新よりの月夜う那

月を友といふやとらり月乃友 赤子や位 乙子

大いふ大満月やあも志らん 井上 宗成

あゝゝゝ月もむらゐの友もあ 田中 西葉

を乃帯りしとや天乃もく月 大塚信 吉孫

今宵月乃うらゝおとこや一人 せ 吉孫

さうふんよ今宵の月共けり まきたを 今池

芋くふや新新月乃けり 糸口 久成

仲也やんるらり月のこま乃也 糸口 今池

月やと宵とぬめの浦とぬ乃也 竹内 一重

又月乃後は事名乃月見く都
 出入りてまを宇治山乃月見く
 見てもく秋もふりこの月夜か
 月乃秋秋乃中じろやあし乃京
 うさめは月見と月や清見物
 指さうふ名月は志系奇人りれ
 吾岸橋ひくくは浪士の月見か
 日の中と月の中とあるこまか
 ちら月と口をささひうあ奇人か
 又人の月をあやうら月よ

主川 政中
 春舟
 日
 吉全
 早吉
 一和
 政令
 源尾
 山 清次

又とよふんうののあし乃月
 尺いりては誰もあをみくさの月
 夜ふあむ風やうあ新もあ月
 ちろは月乃まきりて
 名物乃滋城松茸の月乃うき
 名ふあ月の秋ひりてくも
 るりけ甲六
 新く月の名代やいふひくを
 今昔く男あしてよ月乃を
 ちりてくわさせきの月

中角 正照
 兵衛住 吉政
 長木 孝花
 香峯
 日
 西久
 昌信

とそ方やも晴ふを物せ月乃食
つと方の月やと又乃及る物
名月そあともふふ天竜寺
又あまてるふありき
田中 丸久
吉原 自安
長政丸

お月とあつて月十三七川とあ
月やとそ方何名の外もつら
天よ夜さけりたけしや菊月よ
難波人やつてさうまふ
のあまきりんとおまきり
大坂より月歌路ヤ十三 里
一雪

物色

初きつれ乃大臣も来ませ物
はさむぬるえ久よ物むら
堀 貞晨
堀 忠継

枕神よのちを軽や敷生念
ひまをいつけくつけぬふ
堀 子
貞晨

芋

初きさうは秋さとりほく芋
かいらく物あふ芋のこたふ
わきまこつ物これくはげふ
堀 貞晨
堀 可成
堀 貞晨

六

廿三

神燈

幼垣を汲も極く志や白鹿の海
幼垣の引まりを細や目よりあり

忠保
貞晨

暴風

板ひききりきりきりきりきりきり

尾長
村俊

楓

とせしと楓よつあやうそくた
落ふらまきくしつて楓の

芳井
光永
行唐

西条

種粉ふて流ふつうはやととと

安富
幸友

ふららふらら田川七川りあはれ
楓も物なき筋ハハははる那
つらなぐや碧とせしめらるの本
林もまにむらさきハ上戸う那
つらなめぬねやむらさきとゆり時

江戸住
妹十四
西久
山新住
良棟
長良
正方
目丸
催矢

紅葉

らな中乃みみふれ朱
あふ井りふみ葉ハ面葉の秋人
下る紅葉の色も朱
山見ぬハ麻退ふのしるこちる

吉川
政忠
猪子
吉吉
吉川
政忠
池浦
一貴

紙を言ひ錦を言ひさるる四方の心
紅を言ひ白を言ひを言ひ程はかき
武蔵 吉原

東福寺へあまのつらきれをまじは
あまのつらきれをまじは

改てんてやち通天乃紅紫を
心知乃紅紫の落やあけさ程
紅紫を言ひ酒を言ひむや色上戸
落日ハタくれを井れも程は
横田も杖にあまのつらきれ
唐武 一吉 二吉 三吉 四吉 五吉 六吉 七吉 八吉 九吉 十吉 十一吉 十二吉 十三吉 十四吉 十五吉 十六吉 十七吉 十八吉 十九吉 二十吉 二十一吉 二十二吉 二十三吉 二十四吉 二十五吉 二十六吉 二十七吉 二十八吉 二十九吉 三十吉 三十一吉 三十二吉 三十三吉 三十四吉 三十五吉 三十六吉 三十七吉 三十八吉 三十九吉 四十吉 四十一吉 四十二吉 四十三吉 四十四吉 四十五吉 四十六吉 四十七吉 四十八吉 四十九吉 五十吉 五十一吉 五十二吉 五十三吉 五十四吉 五十五吉 五十六吉 五十七吉 五十八吉 五十九吉 六十吉 六十一吉 六十二吉 六十三吉 六十四吉 六十五吉 六十六吉 六十七吉 六十八吉 六十九吉 七十吉 七十一吉 七十二吉 七十三吉 七十四吉 七十五吉 七十六吉 七十七吉 七十八吉 七十九吉 八十吉 八十一吉 八十二吉 八十三吉 八十四吉 八十五吉 八十六吉 八十七吉 八十八吉 八十九吉 九十吉 九十一吉 九十二吉 九十三吉 九十四吉 九十五吉 九十六吉 九十七吉 九十八吉 九十九吉 一百吉

大和も唐人紅紫のこひ紅紫
賢人の紅紫の中乃查此の
さけのめい白い紅紫はにつらき
紅(ま)あて
武蔵 信也 去降 去拜

紅紫を言ひ赤いあけりの紅紫
くまの赤いあけりよらやらむおま
貞辰

紅紫附

細く目よはふくあやりのち附
あまのつらきれを言ひあけの紅紫附
吉田 赤丸 他意

崩集 付前紙

何人和もやあはれ神のいりし徳を
又く

魚とさうい教生戒やくの道やあ
くの道やあやあくの川の瀬やあは
さいあをと判きり刀とさういあはれ
秋いああも流るりあはれ
沖はさい人よとさうあはれあはれの色
自辰

汗のあはれまはれとさういあはれ
山とあはれあはれ男麻やあはれ
高 政共
原口 好現

百人一首のほろあはれとさういあはれ
吹くよあはれあはれあはれあはれ
世の中よあはれとさういあはれ
自辰
せ 政全
山 一之

まの目もあはれとさういあはれ
まの目もあはれとさういあはれ
地ひくまもあはれとさういあはれ
おのつうまもあはれとさういあはれ
地ひくまもあはれとさういあはれ
あはれとさういあはれとさういあはれ
自辰
西久
可智
行廣

何員 一十

禁野 甚若

大板屋 佐廣

立野 宗悦

しとふらちまうせいふさぬん
糊のりの川をうらや衣乃玉の夢
西乃子北極星と川さぬとふ
打めりも力こゆのさぬとふ
川のわらふ水とまうて

うらぬら波乃あやまれのさぬか

おふも若はく志ころあうもか

飛田 西五
右根

菊

しとふ月やナすもたぬをこく茶

梅壺

又と見ぬ人の葉酒りさく志若

大白乃四ても歌やさく乃さげ

葉をひて物のうよひちやし女葉

文字も星と見らや釋さきこのむ

むとよありて表ふさやまんお菊うふ

花とあふやーあふあそおさふ茶

菊のあはれまつくどくうく解

菊さくらよ似て杉松のよりー見くさ

筒ふ生て見らや竹とらの菊葉

菊さくらやわさうりや十六を

長谷川 泰舟

津屋 一平

西久

一之

定務

一家

西葉

廣代

くわうふんを

大白乃糸の湯入りさくの色
九派やまみ致ふらんさく乃酒

初咳の心を

星むと何処の長きうふさく

とくんく

大くろろいのまや菊乃むの疼
酒のまあちつひてまらさくの芳
初めく乃洗滌うぶのといさくれ浅

九月廿二日

七

吉田 重次
平野 尚好

福井 清之

赤松 重岩
香 吉氏

竹田 平吉

昔より入りも菊酒もをさくれ
菊の酒乃糸とまらさくや酒さか

九月廿二日

あくのうて見よとや菊れむさう
花ぬきむ科のまらさくや菊目石

さくえを拵きて山さく志作りける

霧らひのるうらんや子代乃菊の酒

いんてあふ色や真列乃ころね菊

菊いされあふい菊我りのころね菊

菊家菊よそあや尻乃尾の菊れむ

吉田

一頁

同

赤松

氏全

和賀

西辰

吉野

一雨

尾形

季吹

井上

二子

義照

昔我々の西海の水より仰る
昔我々の西海の水より仰る
昔我々の西海の水より仰る

昔

お栗の葉より川の水より
お栗の葉より川の水より
お栗の葉より川の水より

昔

猶古乃人のくさや
猶古乃人のくさや
猶古乃人のくさや
能くして吸物よすや
能くして吸物よすや
能くして吸物よすや
福こそよもしてえぬや
福こそよもしてえぬや
福こそよもしてえぬや

木突

業梯をそむる時ぬや
業梯をそむる時ぬや
業梯をそむる時ぬや
水

西足

備笑

木突をばあそい風の
木突をばあそい風の
木突をばあそい風の
筆材とうむら志ら
筆材とうむら志ら
筆材とうむら志ら
いふつきてゆきらい
いふつきてゆきらい
いふつきてゆきらい
宇治は吉とよ人の
宇治は吉とよ人の
宇治は吉とよ人の
たぐんはありふけ
たぐんはありふけ
たぐんはありふけ
うき

多笑うまう

風の子ていふ川
風の子ていふ川
風の子ていふ川
年切りころう
年切りころう
年切りころう
せん栗よおひ
せん栗よおひ
せん栗よおひ

廿八

伴

音

大坂

知

音

政共

長谷川

泰舟

山科

良技

長谷川

泰舟

ど

末宣

甲

心業

ど

宗徳

長

宗徳

海

重永

安

重友

源氏列で横のありやと志ゆく あ田 重友

あつちりして

上人乃をそふ末言や志さゆ 中尾 正照

志ぬときいつくお栗乃あふ 貞辰

なるあぬこの上つや 同

探りて我よと 同

神家の栗を

栗乃木のまよりふあつもい 政忠

秋書

秋風乃多打をうあや 尾良 二子

難秋

多あくれ千秋も一よの長 貞景

扇よりあひら 日野 後入

百人一首略句の内

わびぬま せ 政全

俄鬼引 長谷川 泰舟

西武月次 長谷川

七月乃女 後永

退善

どことあ ほ及 二十

れもふまゝの焼よつりてしる米
立田姫や妹つりてしる女志討
枝るりかりりりききりりまめ男
うせりふらそ八月乃り變の口
田舎こころひきり付

秋

三十米

雨
元法

日

音

政共

結

長久

深見

友政

